

Have a good day tomorrow. Tagajo

- 第6話 たった一人の海苔漁師
- 第7話 あの日、自衛官になることを決めた
- 第8話 治して終わりじゃない
- 第9話 私は好奇心の塊
- 第10話 漬物のとめさん

### 第10話 漬物のとめさん



第10話はWebsite「あしたの上々」でドキュメンタリー映像公開中です。



多賀城市

## あしたの上々

このまちの宝はここで暮らす人々。

多賀城の明日を輝かせる、未来へつなぐ20個のタネ。



「あしたの上々」は市制施行50周年を記念し、20人のストーリーを通して多賀城市の明日を創造する4号限定の季刊紙です  
多賀城市市長公室市民文化創造担当 985-8531 宮城県多賀城市中央2-1-1 022-368-1141(内線262) sozo@city.tagajo.miyagi.jp

あしたの上々

2号

ashitagajojo.jp @ f t

体感温度マイナス10度。  
東の空が白み始める午前5時半。

4年前、多賀城の海苔漁師は俺一人になった。

第6話 たった一人の海苔漁師




2011年3月11日。

その日はたまたま漁に出ておらず、  
沖で海苔の手入れを終えて一息ついていた時だった。

急いで海苔を家に片付け高台へ避難したが  
家も乾燥場も流されてしまった。  
船も3隻失った。

もう海苔漁師は出来ないと考えた。



伊藤和光 / 多賀城唯一の海苔漁師。昭和22年山形県大江町に生まれる。自衛隊入隊のため、昭和41年に多賀城市へ移住。昭和44年に結婚し、妻の家業である海苔漁師になる。

しかし、多賀城から海苔漁師を失くしたくなかった。

先が見えない状況の中、国と県の支援を受けて昭和2年から4代続く家業を再開することができた。海苔の仕事を今に残せているのは誇りに思う。

1日に板海苔にして約5万枚分を収穫する。いつもいい海苔が穫れるわけではない。

おいしい海苔は黒くて艶があって美人だ。



第7話 あの日、自衛官になることを決めた



星さや香／陸上自衛隊多賀城駐屯地第22即応機動連隊第1普通科中隊迫撃砲小隊弾薬手。七ヶ浜町出身。小学2年生から七ヶ浜町の劇団NaNa5931に所属し、定期的にミュージカルに出演している。好きなお店は「うまい鮎助ゆとりぎ多賀城店」。

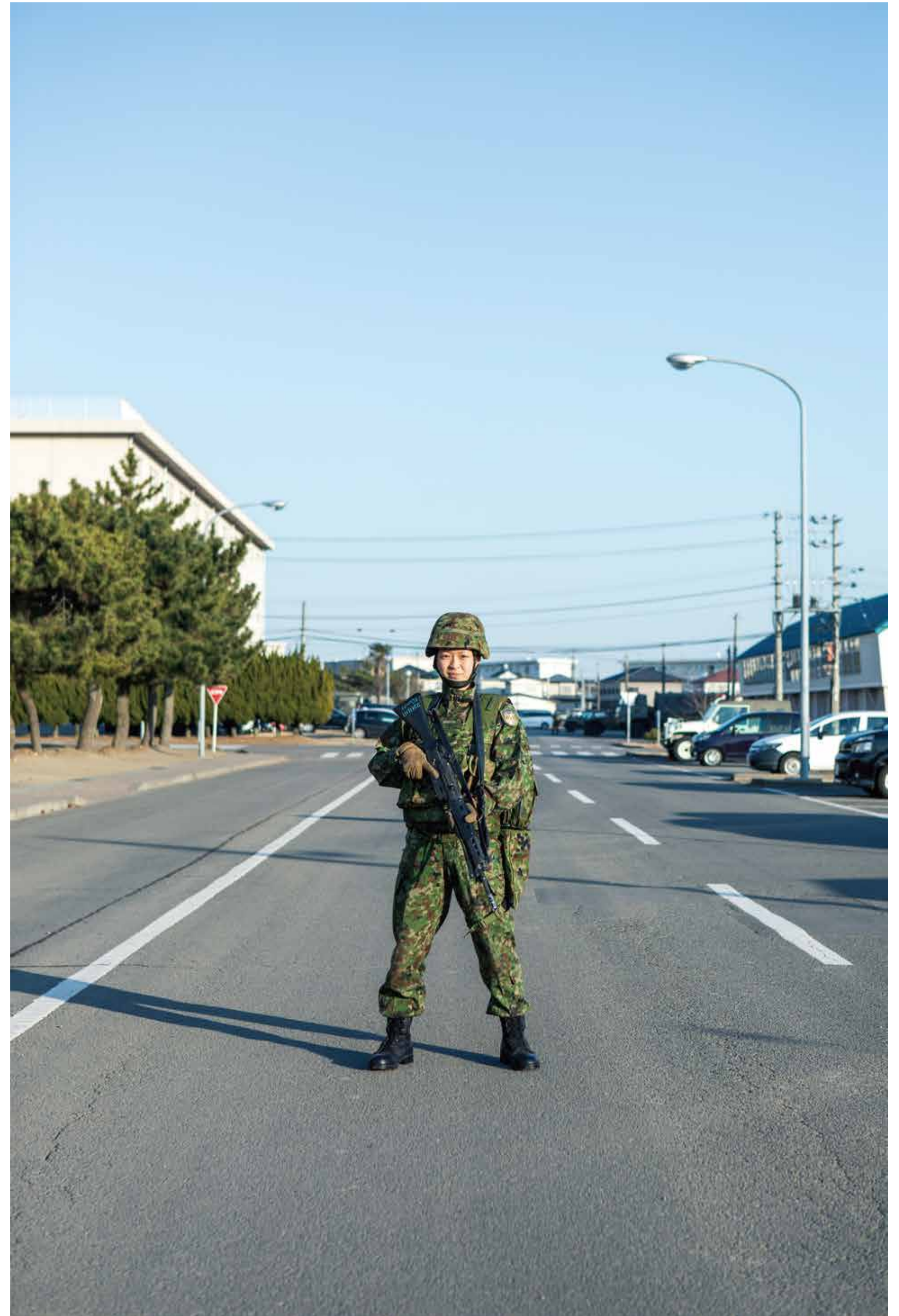


陸上自衛隊多賀城駐屯地が開設されたのは昭和29年のこと。戦前は農地や宅地だったが、戦争が始まると旧海軍の工場が建てられ、弾薬やゼロ戦に付ける機関銃の部品が作られていたという。終戦後は米軍のキャンプ基地だった。

なかなか一般人は足を踏み入れる機会の無い場所だが、どんな人がどんな想いで働いているのだろうか。女性自衛官の星さや香さんにお話を聞いた。

2011年に東日本大震災が起きた時、星さんは小学6年生だった。七ヶ浜町の実家で被災し、津波が来る前になんとか近くの高台に避難できたものの、見下ろすと取り残された近所のおばあちゃんが首まで海水に浸かっている。そこに自衛官が駆けつけ救助をしていた光景が忘れられず、中学生の時に自衛官になることを決めたそう。

小学2年生から続けているミュージカル、中学時代はバスケットボール部に所属しながら駅伝の選手を務め、高校ではダンス部で活躍するなど、とにかく活動的な星さん。他にも夢が広がりそうな時期だが、自衛官への憧れは揺らがなかった。やりたいことは趣味で続けていければいいと言う。





同期36名中、女性の自衛官は4名。所属するのは普通科中隊で、迫撃砲の弾薬手を務める。昔から負けず嫌いだっただ星さんは、部活や習い事でも常に妥協せず上を目指してきた。入隊前は男性の仕事というイメージが強かったが、実際に訓練が始まると「努力次第で男性と同等に働けると感じた」という。「男性隊員に負けたくない。男女の線引きをすることなく、同じように一隊員として働きたい」。危険を伴う仕事で、家族からは反対の声が上がりそうだが、昔から明朗闊達で体を動かすのが好きだった星さんに「自衛官が向いているのでは」と勧めたのは母親だった。

一方で、星さんにはお菓子作りという、自衛官のイメージとは真逆の趣味もある。実際、短大時代に製菓衛生師の資格を取得していて、定年退職後にカフェを経営するというしつかりしたビジョンを持っている。駐屯地での寮生活は、自由になる時間が少なそうだがそうではないようで、駐屯地内のバスケット部に所属していたり、勤務時間以外は習い事に通ったり、市立図書館や市内の飲食店を利用したりと充実しているそうだ。

今は階級が下から3番目。さらにも上に行くには昇任試験を受けていくことになる。「生涯自衛官として働けるように昇任試験に合格したい。そして家庭を持つことになったら、仕事と家庭の両立をしっかりして、習い事も続けていければと思っています」と、最後まで真っ直ぐな言葉が印象的だった。



接骨院をやっています。  
この道18年。今年で40歳です。



高校時代に野球をやっていた時の  
トレーナーさんに憧れて、  
高校卒業して接骨院の学校へ行って  
柔道整復師の資格を取りました。



骨折とか脱臼とかを  
たくさん診て目を養いたから  
はじめは整形外科にまわりました。  
この仕事は、  
ケガを正しく見抜けるかどうかが一番大事なんです。  
骨折してるのに念押しの処置しちゃう  
みたいなことが一番ダメなので。

## 第8話 治して終わりじゃない

2009年に接骨院を開業しました。  
治して終わりじゃない、治し方まで教えて、  
痛みが出たら、  
患者さんが自分でケアできるようにしたい。  
いいなと思うって。

東日本大震災が起きた時です。



被災した  
あるおはあちゃんが  
ホットボトルに  
お湯を入れて  
湯たんぽ代わりにして、  
それで体を  
さすってなんです。

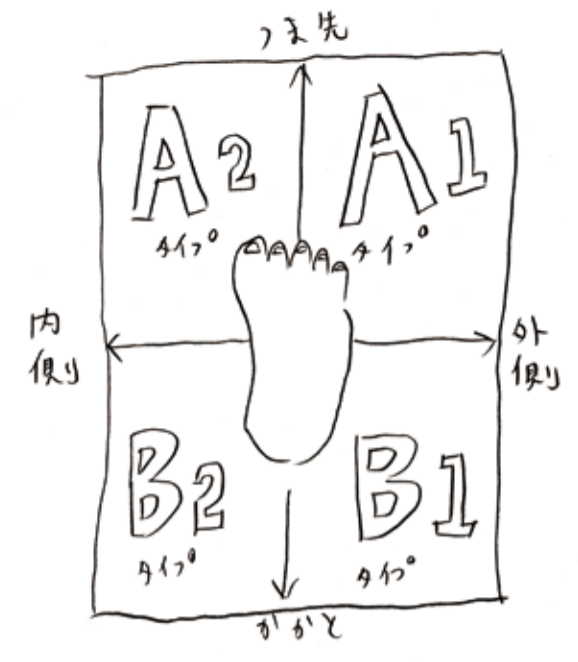
こういう身近なものを便して、  
接骨院に行かなくても  
体を癒すことができるのはいいなって。

これを地域に広めたくて、  
ホットボトルを便した  
「たかしゅん(たか城+ストレッチ)」  
っていう株式会社をやっています。



相澤真 / おおしろ接骨院院長。高校時代、野球部のスポーツトレーナーに憧れこの道へ。柔道整復師、加圧スペシャルインストラクター、4スタンス理論マスター級などの資格を持つ。身近なペットボトルを使ったヘルスケア商品「ボトルケア」を開発。

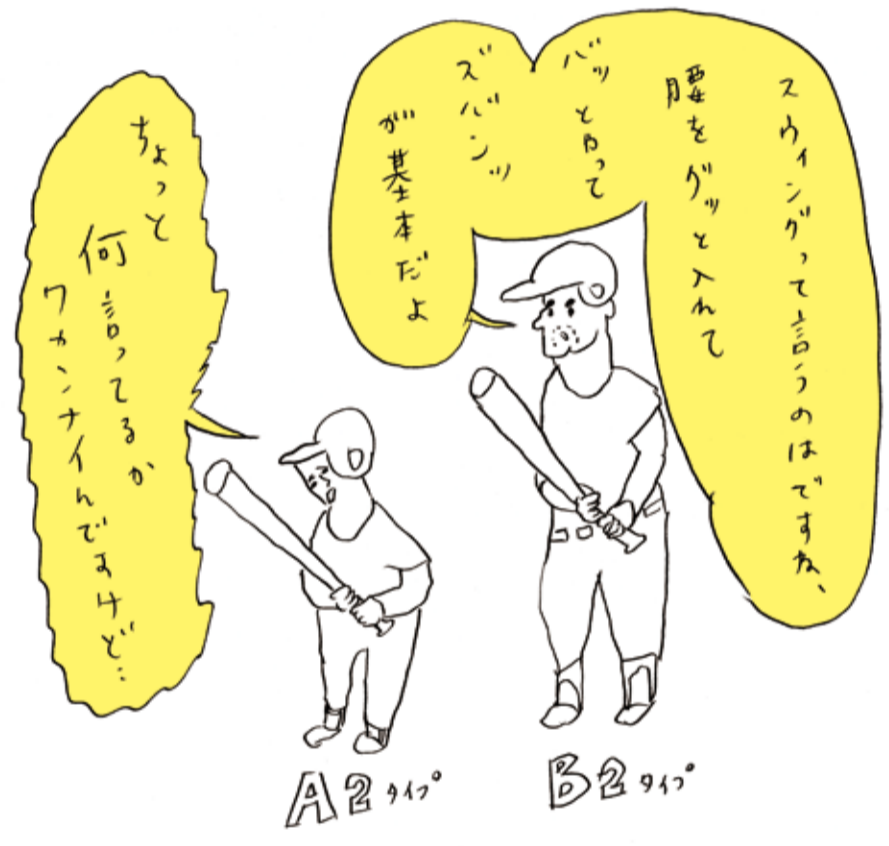
接骨院をやりながら、運動のアドバイスもしている、野球をやってる子供達に、自分の合った打ち方を教えています。「4スタンス理論」というんですけれど。



立っている時に足の裏のどこにバランスの中心があるかで、タイが分かれる。

あまり知られてないんですが、人の体の動かし方には、4つの基本タイプがあります。

例えば、指導者と選手は同じタイプならいいんですが、



タイプが違うと再現できなくて、ぎこちなくなっちゃう。

指導者とタイプが違うと選手は、やり方を教えてあげると、自分が持っているものを発揮できる。



実は運動は目覚めていないんです。できるなくても、やり方を教えてあげれば、みんなできる。

鉄棒の逆上がりでも、走り方でも、どんなスポーツでもアドバイスできます。この理論は、腰痛とか、日常生活にも活かされます。

高橋時化



あと、私が野球をやった頃、トレーナーさんがいてよかったです。たのしかったです。メンタル面のケアでした。

メンタルで体の調子を、山手にもありますから。



だから、私のところに来てくれる高橋先生には、話をよく聞いて、考え方を教えてあげたり、メンタル面のスイッチを入れてあげたりしています。





幼い頃から好奇心の塊でした。3歳くらいかな、「あれ何？」って質問ばかりする時期あるじゃないですか。それに対して母は全部答えてくれたり、分からなければ図書館に行って一緒に調べてくれたり、後回しにせず付き合ってもらったのが私の原点だと思います。物心がついた頃には「知らないことを知ることが好き」だって認識していましたね。

小学1年生の時に起きた東日本大震災の記憶も鮮明に残っていて、小学校の昇降口で強化ガラスがペコペコ音を立てて奇妙な動きをしていたのを覚えています。潜在的に「何でこうなったんだろう。これをどうにかするには何をすればいいんだろう」という気持ちが当時からありました。問題意識と解決に対する思考は常に持っています。幼稚園の頃の絵本から始まり、ずっと読書も好きで、最近は経済系の本とロジカルシンキングの本を読んでいます。オールジャンルで、面白そうと思ったら手が伸びてしまいます。小学校の図書室の小説はほとんど読んだので、今でもどの棚に何の本があるか覚えていています。多賀城高校の災害科学科に進んだのも、好奇心からでした。オープンスクールに行くまでは選択肢に無かったのですが、参加してみたら普通科には無いものがたくさんあって、ここで3年間過ごして自分を成長させたいなと思って志望しました。校外学習がとて多い学科で、五感を使って、教科書を超えた学びの機会がとて多いです。



所属している科学部では、マクラギヤスデについて研究しています。そもそも、あまりにも価値が見いだせない生き物で、何も生み出さないから研究もされていない。生態からアイデアを得て何かに活かす、というのも無さそう。これまでの少ない情報が正しいのかも含めて、自分たちが気になったことや、他の生息地の調査などを行っています。現在2年生なのですが、大学は関東にある医療系の大学を目指しています。生物がとて好きで、研究していても楽しかったので、そこから医療関係に興味を持ちました。何になりたいっていうのはまだ特に決まっていませんが、今は学力をひたすら高めて、将来の選択肢を広げていきたいです。

騒がしい都会も好きですが、ひっそりとしたのどかな場所も好きです。多賀城には緑がたくさんあって、ゆったりとしていて美しく見える。一度ここを離れることになるとありますが、いつか戻って来たいなあと考えています。

## 第9話 私は好奇心の塊



櫻井乃綾 / 多賀城高校災害科学科2年。生徒会長を務め、視察に訪れた他校の生徒などに地上災害訓練や多賀城の街歩き案内なども行う。読書家で、おすすめの小説家は宮城県出身の蒼月海里。地下アイドル好き。